

学 校 紹 介

高千穂町立高千穂中学校 金丸智弘

1 神話と伝説の町

中心部を五ヶ瀬川が貫流し、名勝天然記念物高千穂峡が神秘的かつ雄大に自然に創出している高千穂町。平地の標高は約300メートル以上もあり夏・冬の気温差が大きく、春の新緑、秋の紅葉は観光資源の一つ。『古事記』『日本書紀』に描かれる神話には、高天原の様々な地名や場所の名が登場するが、いくつかは現在も存在している。太古の昔、高千穂は神々が住む特別な地だったのか定かではないが、天上界と地上界が入り交じったこの高千穂町が神話と伝説のふるさとであることだけは間違いない。



本校は、昭和22年5月8日に創立されて以来、令和5年度で満77周年の歴史をもつ「へき地学校等」で、現在240名の生徒が在籍する。令和3年に、九州中央自動車道の一部である日之影深角IC～平底交差点間2.3kmが開通し、本年度は、同自動車道の一部となる押方地区の童里トンネル新設工事が着工する等、インフラ整備が着実に進んでいるものの、人口減少に歯止めがかからない。その影響で、中学校も平成20年に 向山中、同27年に岩戸中、令和3年に田原中が本校に統合され、令和7年度には上野中と統合される見通しで、本町は、高千穂中一校となる予定である。

2 高千穂GLOBAL（世界的な感覚で高千穂を見直そうという意味）

産業の中核は農業。寒暖の差が大きく、夏場には涼しい高冷地気候を活かして、多くの作物が作られている。棚田では、美味しい高千穂米ができるほか、高千穂で生まれ、山野草を中心としたミネラル豊富な餌を食べ育った「高千穂牛」は、全国和牛能力共進会で「内閣総理大臣賞」を受賞する等、和牛日本一の里として畜産業も盛んである。このようなことから、平成27年に高千穂郷・椎葉山はFAO（世界食糧農業機関）により世界農業遺産（ジアス）に認定されたが、本町が認定されてから8年の月日が流れ、生徒たちにとっては当たり前の風景がそこにあるだけで、世界農業遺産に認定を受けている地区であるという意識が年々低下している現状にある。

そこで、令和4年度に本町の小中学校の教務主任会が中心となって、それぞれの学校で行っている地域学習をジアスの視点から整理し、この素晴らしい環境を意識し、大切にしようとする気持ちを高め、持続可能なまちづくりを推進していこうと取り組んでいる。

3 本校の主な取組（総合的な学習の時間における取組）

「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」ことを目的とし、第1学年「高千穂を知る」、第2学年「高千穂の産業を知る」、第3学年「高千穂に貢献しよう」というテーマをもとに、GIAHS 関連基準 【基準1 食料と生計の保障】【基準2 農業生物多様性】【基準3 地域の伝統的な知識システム】【基準4 文化、価値観と社会組織】【基準5 優れた景観と土地・水資源管理の特徴】に照らし合わせながら取り組んでいる。また、地域伝統芸能である「えりもの」や「しめ縄」作り、神楽舞（神楽笛や太鼓を含む）、棒術、なぎなた、民謡等を伝承者から学び、郷土の一員としての自覚を深めるとともに、積極的に地域社会の充実と向上に取り組む態度を育てている。



4 終わりに

これまで諸先輩方が築いてこられた輝かしい「伝統を力に」し、西臼杵地区の基幹校として、その重責を果たすべく、さらに発展させていきたい。

